

【V-UP】ORACLE MASTER Silver SQL 2019 講座

模擬問題①解答・解説

【V-UP】ORACLE MASTER Silver SQL 2019 講座

はじめに

■ 本教材の利用について

- ・ 本教材は ORACLE MASTER Silver SQL 2019(1Z0-071)について学習できるように構成されています。
- ・ 合格ライン 80 点、制限時間 120 分

■ 注意事項

- ・ 本書に記載されている内容に基づく設定や運用の結果について、著者、株式会社シンクスバンクは一切の責任を負いかねます。 あらかじめご了承ください。
- ・ 本書の内容は、改善のために事前連絡なしに変更されることがあります。

■ 商標に関して

- ・ 本書に記載されているすべての会社名およびロゴ、製品名などは、該当する各社の商標または登録商標です。
- ・ 本書では、TM、®、©マークは省略し、また一般に使われている名称を用いている場合があります。

問題

■ 問題 1

解答： B,C,E

解説：

- A：主キーに NULL 値を持たせることはできません。
- B：正解です。
- C：正解です。
- D：外部キーの値は、参照先の主キーまたは一意キーの値と一致するか、NULL であることが可能です。
- E：正解です。
- F：一意キーに NULL 値を持つことが可能です。

■ 問題 2

解答： A

解説：

ENGINEERS エンティティと TEAMS エンティティは多重関係 (N:N) になっていますが、ERD のエンティティ設計では、中間的なエンティティを別途用意し、1:N の関係にする必要があります。

参考情報： 以下のサイトに、ERD の多重度の解説があります：

http://itref.fc2web.com/technology/entity_relationship_diagram.html#MODEL

■ 問題 3

解答： A,B,C

解説：

- D,E,F はいずれもオブジェクト型データベースのみの特徴となります。
- SQL は原子性、一貫性、分離性、耐久性 (ACID) を保証します。

■ 問題 4

解答： C,E

解説：

- 列名を別名で表示する場合、AS 句を使用します。(AS は省略可能です)
- また、AS の次が一重引用符ではさんでいる場合、エラーとなります。

■ 問題 5

解答： D

解説：

- 設問のような検索をする場合、WHERE 句の LIKE 演算子を使用して絞り込みを行います。'T' 始まりですので 'T%' と指定します。

■ 問題 6

解答： A,E

解説：

DUAL 表は、SELECT 権限を持つすべてのユーザーがアクセスできる、単一行・単一列を持つ特殊な表です。

関数仕様や計算式の確認などで使用します。

■ 問題 7

解答： A

解説：

B,C,D は DISTINCT の指定位置不正のためエラーとなります。

■ 問題 8

解答： D

解説：

A : WHERE 句の指定が不正なためエラーとなります。

B : ITEM_PRICE が WHERE 句で指定されていないため、ITEM_PRICE が NULL のものが対象となります。

C : WHERE 句の指定が不正なためエラーとなります。

■ 問題 9

解答： D

解説：

OR より AND の方が優先順位は高いため、

ITEM_TYPE = 'GOODS' OR ITEM_TYPE = 'CASUAL' AND ITEM_PRICE >= 2000

は、

ITEM_TYPE = 'GOODS' OR (ITEM_TYPE = 'CASUAL' AND ITEM_PRICE >= 2000)

と同意となります。

ITEM_TYPE が GOODS のもの、または ITEM_TYPE が CASUAL でかつ ITEM_PRICE が 2000 以上のものがヒットします。

■ 問題 10

解答： B

解説：

設問ではまず ROWNUM 句で登録した順に 3 行を取り出します。さらに ORDER BY で、ITEM_PRICE の昇順（安い方から順）に並べます。

■ 問題 11

解答： B

解説：

A： 置換変数は SQL コマンドおよび SQL*Plus コマンド内の任意の位置で使用できます。また、SQL Developer でも置換変数は使用できます。

補足： SQL Developer は Oracle データベース管理用の GUI ツールです。

B： 正解です。

C： &&置換変数は SQL 実行後も値が保持されます。

D： 単一引用符で囲っても囲わなくても入力できます。

E： プロンプトで入力する置換変数は、二重引用符で囲むとエラーになります。

■ 問題 12

解答： A,C

解説：

SET VERIFY ON を実行すると、置換前の SQL 文と置換後の SQL 文をプロンプト上に表示します。非表示にする場合は、SET VERIFY OFF を実行します。

VERIFY コマンドは、SQL Developer および SQL*Plus で使用できます。

また、置換変数の値は DEFINE コマンドで設定できます。

■ 問題 13

解答： A,E

解説：

A： 正解です。INITCAP で先頭 1 文字を大文字に変換した一覧を取得して、LIKE で 'S' or 'T' 始まりのものを絞り込みます。

B： T に % が無いため、'T'1 文字以外の 'T' 始まりの商品名はヒットしません。

C： BETWEEN と UPPER の文法エラーとなります。

D： T,S の後ろに % が無いため、'T'1 文字の商品名、'S'1 文字の商品名のみヒットします。

E： 正解です。

■ 問題 14

解答： C

解説：

現在の日付は SYSDATE で取得します。

「製造から 2 年以上経過した」は、

「現在日付 (SYSDATE) から 2 年を引いた値が、製造年月日より大きいもの」

という意味になります。

■ 問題 15

解答： C

解説：

- ROUND(n, integer)関数は、四捨五入を行います。
- TRUNC(n1,n2)関数は、切り捨てを行います。

本問の SQL ではまず、 TRUNC(345.16, 1) が実行され、1 桁切り捨てられて、345.1 が戻されます。さらに、ROUND(345.1,0)で四捨五入が実行され、345 が戻されます。

■ 問題 16

解答： C

解説：

- ADD_MONTHS：指定した日付を指定した月分加算する関数です。
- LAST_DAY：指定した日付の月末日を求める関数です。
- NEXT_DAY：指定曜日の直近の未来日を求める関数です。
- MONTHS_BETWEEN：月数の差を求める関数です。

選択肢 A は、LAST_DAY のパラメータの数が合っていない。

選択肢 D は、LAST_DAY のパラメータの型が合っていない。パラメータには DATE 型を指定する必要があります。

■ 問題 17

解答： A,B,C

解説：

COALESCE は、指定パラメータリストを判定し、NULL でない式の値を返します。

また、COALESCE は、パラメータリストに同じ型を指定する必要があるため、D,E はエラーとなります。

■ 問題 18

解答： C,D

解説：

A：NUMBER 型と文字列リテラルの比較で、暗黙的な変換が行われます。

B：リテラル値が NLS_DATE_FORMAT の設定と合っていないためエラーとなります。

C：正解です。DATE 型と文字列リテラルの比較で、暗黙的な変換が行われます。

D：正解です。NUMBER 型と文字列リテラルの比較で、暗黙的な変換が行われます。

■ 問題 19

解答： A,B

解説：

C/E は TO_NUMBER の文法不正で invalid number エラーとなります。DATE 型を TO_NUMBER で数値にすることはできません。

D は数値式の文法不正で inconsistent datatypes エラーとなります。日付の掛け算はできません。

■ 問題 20

解答： E

解説：

A,B,C,D は TO_CHAR, TO_NUMBER の文法不正でエラーとなります。

A は、TO_NUMBER で数値を数値に変換しようとしています。

B と C は、文字列 SHOHIN_KAKAKU に数値.30 を掛け算しようとしています。

D は、SHOHIN_KAKAKU は、三桁ごとにカンマ「,」で区切られていますが、TO_NUMBER に書式を指定していないので、カンマ「,」で区切られた文字列は変換できません。

■ 問題 21

解答： D,E

解説：

A：HAVING の条件に、COUNT 関数などの集計関数を含めることができます。

B：HAVING 句の条件に AS (列別名) は使用できません。

C：WHERE 句と HAVING 句を同時に使用することができます。

D：正解です。

E：正解です。WHERE はグループ化の前に実行されます。

■ 問題 22

解答： A

解説：

A：正解です。ただし、WHERE の後に GROUP BY を指定する必要があります。

B：GROUP BY の後に WHERE を使用した場合、エラーとなります。

C：GROUP BY で列別名を使用した場合、エラーとなります。

D：SELECT で集計関数を使用しても、GROUP BY 句を使用できます。

E：そのような規定はありません。

■ 問題 23

解答： A,C

解説：

A：正解です。

B：SUM で 1 行のみの結果を表示しようとしませんが、ITEM_NAME は複数行表示しようとするので、結果の行数が合わずにエラーとなります。

C：正解です。

D：WHERE 句でグループ関数を使用したためエラーとなります。グループ関数を使用した式で制限を行う場合は、HAVING を使用します。

■ 問題 24

解答： B,E

解説：

- A : USING 句は結合列を表名または表別名で修飾することができません。
- B : 正解です。自己結合する場合、表別名が必要です。
- C : そのような規定はありません。
- D : そのような規定はありません。
- E : 正解です。

■ 問題 25

解答： B

解説：

- A : OUTER JOIN の説明です。
- B : 正解です。
- C : OUTER JOIN の説明です。なお、(+)による結合は、ANSI 結合構文ではなく Oracle 結合構文です。(※)
- D : CROSS JOIN の説明です。

※本テキストでは以下の表記とします。

- ・ ANSI 結合構文 : SQL:1999 準拠の ANSI 結合構文のこと
- ・ Oracle 結合構文 : Oracle 独自の結合構文のこと

■ 問題 26

解答： C,E

解説：

- A,B : BETWEEN 条件と、統合・不等号条件ではパフォーマンスに違いはありません。
- C : 正解です。
- D : ANSI 結合構文と Oracle 結合構文ではパフォーマンスに違いはありません。
- E : 正解です。

■ 問題 27

解答： C,D

解説：

- 設問からメーカーが NULL になるケース（メーカーに割り当てられていない車を取得するケース）は取得しません。
- A,E は、RIGHT と LEFT の指定が逆の指定となっているため、メーカーに割り当てられていない車のリストも表示します。
- B は ON のあとの記載がないため文法エラーとなります。

■ 問題 28

解答： C

解説：

CROSS JOIN は、すべての行の組合せを取り出す結合です。
行数は、それぞれの表の行数を掛けた値になります。

本問では、CROSS JOIN で指定した DUAL 表それぞれで 4 という 1 行データを返しますので、
1×1×1×1 となり結果 1 行が返されます。

■ 問題 29

解答： A

解説：

外側の問合せに対して、内側の問合せが、1 行の値を返す副問合せを、単一行副問合せと言います。
また、列に表名・エイリアスを付与する必要はありません。

■ 問題 30

解答： B,C,E

解説：

正答の記載の通りとなります。

従いまして、B,C,E が解答となります。

補足：

「複数の行における 1 つの列の値を戻す副問合せ」では長いので「複数行副問合せ」と言っています。

■ 問題 31

解答： B,C

解説：

- A：外側の文が先に実行されます。
- B：正解です。内側の文は、外側の文が実行された後に実行されます。
- C：正解です。外側の文の 1 行ごとに、内側の文を実行します。
- D：外側の文の 1 行ごとに、内側の文を実行します。

■ 問題 32

解答： D

解説：

A,B,C はそのような規定はありません。

■ 問題 33

解答： A

解説：

INTERSECT 演算子は各 **SELECT** 文の重複データを抽出する演算子です。

以下の仕様です。

- ・ 各 **SELECT** 文の重複データを抽出するため、**SELECT** 文の順は関係ありません。
- ・ 結果に **NULL** があっても、**NULL** 値としてデータを抽出します。
- ・ **UNION**, **UNION ALL** の優先順位は同じです。
- ・ 複数の **INTERSECT** を使用できます。
- ・ 重複データは除去されます。

■ 問題 34

解答： B,C,D

解説：

UNION, **UNION ALL** 演算子の仕様は以下の通りです。

- ・ **UNION**：2 つの問い合わせ結果を連結し、重複行は削除して出力します。**UNION** は結果をソートします。
- ・ **UNION ALL**：2 つの問い合わせ結果を連結し、重複行はそのまま出力します。**UNION ALL** は結果をソートしません。

いずれも、抽出項目の列の数は同数である必要があります。

■ 問題 35

解答： B

解説：

選択枝のそれぞれの意味は以下となります。

- ・ **MINUS**：先の **SELECT** 文の結果レコードから、次の **SELECT** 文の結果レコードをマイナスする演算子
- ・ **MINUS ALL**：そのような集合演算子はありません。
- ・ **INTERSECT**：共通のデータを抽出する演算子
- ・ **UNION/UNION ALL**：抽出行を連結する演算子

■ 問題 36

解答： B

解説：

A：ROLLBACK もできます。

B：正解です。DDL を実行すると、トランザクションとして実行されます。

C：BEGIN 句という句は存在しません。

D：SQL*Plus を EXIT 又は QUIT コマンドで終了した場合は COMMIT されます。

■ 問題 37

解答： B,C,E

解説：

- A : UPDATE 単独実行でトランザクションは終了しません。
- B : 正解です。
- C : 正解です。ALTER などの DDL を実行するとトランザクションは終了します。
- D : DELETE 実行でトランザクションは終了しません。
- E : 正解です。SQL*Plus を EXIT 又は QUIT コマンドで終了した場合は COMMIT されトランザクションは終了します。

■ 問題 38

解答： A,C,E

解説：

SQL はリレーショナル・データベースのデータを操作するための言語です。
GUI や表計算ソフトウェアとのインタフェースは、標準サポートしません。

従いまして A,C,E が解答となります。

■ 問題 39

解答： B,D

解説：

- ROLLBACK TO SAVEPOINT は以下の動作をします。
- ・ 指定した SAVEPOINT 以降のデータベースへの変更を取り消します。
 - ・ 指定した SAVEPOINT 以降の SAVEPOINT をすべて消去します。
 - ・ 指定した SAVEPOINT 以降に取得された行および表のロックをすべて解除します。

COMMIT は変更を確定し、行および表のロックをすべて解除します。(SAVEPOINT を消去します)

■ 問題 40

解答： B,C

解説：

ROLLBACK TO SAVEPOINT で SP1 の SAVEPOINT まで処理を戻します。
次の ROLLBACK で全体の処理を戻します。

■ 問題 41

解答： B、D

解説：

- A : VALUES 句の前に列の指定がないため、VALUES 句には表の定義と同じ 5 列の項目が必要です。
- B : 正解です。
- C : VALUES 句の前後の指定の列数が異なっています。
- D : 正解です。列の値に DEFAULT を指定すると、SYSDATE が設定されます。
- E : ITEM_NAME は NOT NULL 指定のため省略できません。

■ 問題 42

解答： A,D

解説：

B,C は AND、SET の使用方法が誤っています。複数の列を更新する場合、

SET 列名 = 式, 列名 = 式;

のように、「列名 = 式」をカンマで区切って並べます。SET は一つだけです。また、AND を書くのは誤りです。

E は 'ZERO' というキーワードはありません。

■ 問題 43

解答： A

解説：

A：正解です。副問合せの評価によって戻された行から導出され、計算された行が 1 つ以上の表に挿入されます。

B：リモート表とは、分散データベースを使用する場合のリモートデータベースにある表のことです。リモート表には、マルチテーブル・インサートを実行できません。

C：コレクションとは、表の配列のことです。PL/SQL で使用する VARRAY 型や、ネストした表（リスト）などが該当します。マルチテーブル・インサートに表のコレクション式は指定できません。

D：マルチテーブル・インサート文のどの部分にも順序を指定することはできません。

E：表のみにマルチテーブル・インサートが実行でき、ビューまたはマテリアライズド・ビューには実行できません。

ビューの説明は後の章の「ビューの管理」を参照ください。また、マテリアライズド・ビューとは、通常ビューよりも高速に処理を行う仕組みを持つビューのことを言います。

■ 問題 44

解答： B,D

解説：

A：一つのマルチテーブル・インサートには、最大 127 個の WHEN 句を指定できます。

B：正解です。WHEN の条件を満たさなかったものが ELSE の対象です。

C：副問合せによって返される各行は、1 つ以上の表に挿入できます。

D：正解です。

E：一つの WHEN 条件に複数の INTO 句を使用できます。

■ 問題 45

解答： B,E

解説：

MERGE 文は、1 つ以上の行を選択し表またはビューに対して更新・挿入を行います。

A：ビューを使用することができます。

B：正解です。

C：削除することができます。

D：1 つの MERGE 文で更新、挿入できる対象は 1 つの表だけです。

E：正解です。ビューから行のマージが可能です。

■ 問題 46

解答： B

解説：

MERGE 文を使用すると、1 つ以上のソースから行を選択し、表またはビューに対して更新および挿入を行えます。

MERGE 文で更新を行う場合、ON 句で参照する列は更新できません。

■ 問題 47

解答： B,D,F

解説：

A：DML の説明です。(INSERT)

B：正解です。(ALTER TABLE ～ RENAME)

C：トランザクション制御文 (TCL) の説明です。(ROLLBACK)

D：正解です。(ALTER TABLE ～ READ ONLY)

E：DML の説明です。(UPDATE)

F：正解です。制約を追加できます。(ALTER TABLE ～ ADD CONSTRAINT)

■ 問題 48

解答： C,D,F

解説：

A：LONG 型の最大サイズは 2GB です。

B：TIMESTAMP の秒は小数点以下 9 桁まで値を格納できます。

C：正解です。

D：正解です。なお、格納データ長が定義より短い場合、余った部分は定義された列の最大幅まで空白が埋め込まれます。

E：BLOB はバイナリデータを格納するために使用されます。BLOB 型は、OS のファイルとは関係ありません。OS のバイナリファイルを参照するデータ型は BFILE 型です。

F：正解です。

■ 問題 49

解答： A

解説：

B：全角スペースを""で囲っていることでエラーとなります。""は列名やテーブル名などの識別子を囲うために使います。そのため、B は間違いです。REMARK 列は VARCHAR2 型なので、文字列を指定します。文字列定数 (リテラル) は''で囲みます。

C：SYSDATE を''で囲っていることでエラーとなります。

D：DEFAULT の後に '=' があることでエラーとなります。

■ 問題 50

解答： D

解説：

CHECK と SYSDATE を同時に使用することはできません。

■ 問題 51

解答： B

解説：

読み取り専用モードの表に対して、列の状態変更やデータ削除を実行するとエラーになります。
表の削除は可能です。

■ 問題 52

解答： A

解説：

A：正解です。他の列が 1 つでも表に残っている場合、列は削除されます。

B/C：該当列にデータが含まれていても含まれていなくても、列は削除されます。

D：UNUSED が設定された列は無い状態と同等です。UNUSED を設定した列も DROP した列と同様、データを戻すことはできません。

■ 問題 53

解答： D

解説：

A：TRUNCATE 文で索引を削除することはできません。

B：TRUNCATE 文でデータを削除することができます。

C：TRUNCATE は DDL なのでロールバックはできません。

E：TRUNCATE 文では行を選択した削除はできません。

■ 問題 54

解答： D

解説：

A：外部キー制約で参照されている表であっても、CASCADE オプションをつければ、表を TRUNCATE することは可能です。ただし、参照している表も空になります。

B：TRUNCATE を実行しても、索引や制約などの依存オブジェクトは削除されません。

C：TRUNCATE は DDL なのでロールバックはできません。

D：正解です。

■ 問題 55

解答： A,C,D

解説：

A：正解です。索引を複数作成できます。

B：PUBLIC SYNONYM を作成できます。

C：正解です。SYNONYM などのオブジェクトを作成できます。

D：正解です。

E：ビューを使用して参照することができます。

■ 問題 56

解答： B,D,E

解説：

- A：他のセッションからのデータを参照することはできません。
- B：正解です。
- C：一時セグメントとは、Oracle の内部処理を行う際に一時的に使用する領域です。一時セグメントは、セッションで初めてデータが挿入される際に割り当てられます。セッションでデータがロードされるまで、表は空白状態のように見えます。
- D：正解です。
- E：正解です。

■ 問題 57

解答： B,D

解説：

- A：データが外部に存在するため、索引は使用できません。
- B：正解です。CREATE TABLE AS SELECT を使用します。
- C：ORACLE_LOADER は、外部ファイルからのデータのロードができます。ORACLE_DATAPUMP はデータのロードとアンロードを行うことができます。
- D：正解です。
- E：外部表のメタデータは、データベース内に格納されます。

■ 問題 58

解答： B,D

解説：

- A：外部表への DML は実行できません。
- B：正解です。
- C：ORACLE_LOADER ドライバの説明です。ORACLE_DATAPUMP アクセス・ドライバは、ダンプファイルと呼ばれるバイナリ形式のファイルを使用して、データのロード・アンロードを行います。
- D：正解です。異なるデータベースの外部表で利用できるダンプファイル（バイナリ形式ファイル）が作成されます。
- E：異なるデータベースの外部表で利用できるダンプファイルが作成されます。

■ 問題 59

解答： C

解説：

列に主キー制約を付与する場合は以下の文を実行します。

```
ALTER TABLE 表名 ADD CONSTRAINT 制約名 PRIMARY KEY (列名);
```

補足：

ALTER TABLE コマンドに ADD、DROP、MODIFY を指定すると、それぞれ、制約の追加・削除、状態変更ができます。この問題は、ITEM_ID 列に主キー制約を追加するので ADD を指定します。DROP を指定すれば制約は削除されます。MODIFY は制約の状態の有効・無効を切り替えます（制約の種類を変えるものではありません）。制約が無効状態のとき、制約違反が起きてもエラーは発生しません。

■ 問題 60

解答： C

解説：

CASCADE オプションで無効化された主キー制約を有効にしても、主キーに依存した外部キーは無効のままの状態です。

外部キーを有効にする場合は、手動で **ALTER TABLE** コマンドを実行して有効にする必要があります。

■ 問題 61

解答： A,D,E

解説：

A：正解です。**GROUP BY** や **DISTINCT** が含まれるようなビュー経由でデータを更新することはできません。

B：**FORCE** オプションを使用することで、存在しない表に対してビューを作成することができます。

C：A の解説と同様です。

D：正解です。

E：正解です。**OR REPLACE** オプションはビューを削除せずに再定義します。

■ 問題 62

解答： A,D

解説：

A：正解です。**CASCADE CONSTRAINTS** を指定すると、関連する参照整合性制約を削除します。

B：そのような規定はありません。

C：他のスキーマにあるビューを削除する場合は、**DROP ANY VIEW** 権限が付与されている必要があります。

D：正解です。

E：そのような規定はありません。

■ 問題 63

解答： A,C

解説：

A：正解です。

B：不可視索引は **DML** 実行中でも維持されます。

C：正解です。索引の重複を禁止する場合（一意な索引の作成）は、**CREATE INDEX** で **UNIQUE** を指定します。一意な索引を一意索引、一意でない索引を非一意索引と言います。

D：ファンクション索引が使用できます。

例：関数 **SUBSTR** を使用する場合

```
CREATE INDEX ITEM_IDX ON ITEM (SUBSTR(ITEM_NAME, 0, 5));
```

E：主キー制約や一意キー制約により暗黙的に作成された索引のみを削除することはできません。

■ 問題 64

解答： D

解説：

RECYCLEBIN とはゴミ箱のような機能です。索引が付与されている表を削除すると、表と同時に索引も削除され、RECYCLEBIN に入ります。

FLASHBACK TABLE TO BEFORE DROP を実行すると、表と同時に削除された索引が RECYCLEBIN からリカバリされます。

■ 問題 65

解答： E

解説：

A：削除しなくても再定義 (REPLACE SYNONYM) ができます。

B：CREATE PUBLIC SYNONYM システム権限が必要です。

C：ユーザーには CREATE PUBLIC SYNONYM システム権限が必要です。

D：プライベート・シノニムは、スキーマ毎に一意である必要があります。

E：正解です。表やシノニムなどのオブジェクトをシノニムとして持てます。

■ 問題 66

解答： E

解説：

すべてのユーザーがアクセスできるシノニムを作成する場合は、

CREATE (OR REPLACE) PUBLIC SYNONYM

を使用します。

■ 問題 67

解答： B,D,F

解説：

A：シーケンスの初期値は START WITH で指定します。

B：正解です。

C：複数の表やセッションでも使用できます。

D：正解です。

E：インスタンス障害が発生した場合、キャッシュされていたシーケンス番号はすべて失われます。

F：正解です。

G：ALTER SEQUENCE を使用して値の変更が可能です。

例：ALTER SEQUENCE EMP_SEQ MAXVALUE 10000;

■ 問題 68

解答： B,E

解説：

- A：CREATE ANY SEQUENCE システム権限が必要です。
- B：正解です。CYCLE が指定されていますので、値が MAXVALUE で指定した値（9999）に到達したら、MINVALUE 値に戻ります。MINVALUE は指定されていないため MINVALUE のデフォルト値の 1 に戻ります。ITEM_SEQ が 1 に戻った場合、ITEM_ID に割当て済みの値が再び生成されるため、PRIMARY KEY が重複してエラーになります。
- C：必ずしも同じ値にはなりません。シーケンス値は、表とは関係なく発行されます。たとえば、シーケンス ITEM_SEQ を別の表の ID の生成でも使用している場合、必ずしも、この表の行の順番に ITEM_ID の値が割り当てられていくわけではありません。
- D：表の列で指定しているシーケンスが削除された場合、INSERT 時にエラーとなります。
- E：正解です。

■ 問題 69

解答： D

解説：

- A：DELETE 権限はオブジェクト権限です。
- B：システム権限付与のためには、ALTER ANY TABLE を使用します。
- C：MATERIALIZED ではなく MATERIALIZED の誤りです。文法エラーとなります。
- D：正解です。CREATE TABLE 権限はシステム権限です。

■ 問題 70

解答： A,B,F

解説：

- A：正解です。（システム権限：CREATE SESSION）
- B：正解です。（システム権限：SELECT ANY SEQUENCE）
- C：READ オブジェクト権限についての説明です。
- D：GRANT EXECUTE オブジェクト権限についての説明です。
- E：WITH GRANT OPTION はオブジェクト権限で使います。
- F：正解です。

■ 問題 71

解答： B,D

解説：

- A：システム権限には WITH ADMIN OPTION を使います。
- B：正解です。WITH GRANT OPTION は GRANT 文で使います。
- C：GRANT 文で使います。REVOKE 文では使えません。
- D：正解です。WITH GRANT OPTION は、別ユーザーへの権限付与を可能とします。

■ 問題 72

解答： B

解説：

- A：一般ユーザーでも ALL PRIVILEGES を指定できます。
- B：正解です。本問の場合、ITEM 表と MAKER 表にそれぞれ GRANT 文を実行する必要があります。
- C：一般ユーザーでも WITH GRANT OPTION を指定できます。
- D：WITH ADMIN OPTION はシステム権限で使用するオプションです。

■ 問題 73

解答： A,C

解説：

- A：正解です。
- B：ロールは自分自身のロールには付与できません。
- C：正解です。
- D：ユーザーは、複数のロールを付与できます。
- E：ロールを循環的に付与することはできません。例えば、ロール 1 がすでにロール 2 に付与されている場合は、ロール 2 をロール 1 に付与することはできません。

■ 問題 74

解答： C,D,E

解説：

- A：ロールは、システムオブジェクトのため、所有という概念はありません。
- B：ロールは、システムオブジェクトのため、所有という概念はありません。
- C：正解です。設問の記載通りです。
- D：正解です。設問の記載通りです。
- E：正解です。設問の記載通りです。

■ 問題 75

解答： C,D

解説：

- A：データ・ディクショナリは DBA が管理するものではなく、内部的に管理されます。
- B：データ・ディクショナリ・ビューは、データベースに関する管理情報を提供する読取り専用の表の集合体です。
- C：正解です。
- D：正解です。例えば DBA_TABLE や USER_TABLE は、DBA（管理者）や個別ユーザーの表情報を取得します。

■ 問題 76

解答： A,B

解説：

- A：正解です。DDL 実行時に常に更新されます。
- B：正解です。
- C：すべてのユーザーがアクセスできるビューもありますが、大半はアクセス不可です。
- D：接頭辞 ALL_はビューであり表ではありません。DBA_,USER_で始まるものも同じくビューです。
- E：問い合わせは記録されません。DDL は記録されます。

■ 問題 77

解答： B,C,E

解説：

各関数の意味は以下の通りです。

- ・SYSDATE 関数：データベース・サーバーが存在する OS の現在の日時を返します。
- ・CURRENT_TIMESTAMP 関数：セッション・タイムゾーンの現在の日付および時刻を返します。
(小数秒を含む)
- ・CURRENT_DATE 関数：セッション・タイムゾーンの現在の日付および時刻を返します。(小数秒は含まない)

■ 問題 78

解答： B

解説：

- A：INTERVAL YEAR TO MONTH は、負の値を使用できます。
- B：正解です。INTERVAL YEAR TO MONTH は、年ごとの間隔をサポートします。
- C：INTERVAL DAY TO SECOND は、小数秒を使用できます。
- D：INTERVAL DAY TO SECOND は、年・月ごとの間隔はサポートしません。日、時間、分および秒をサポートします。

模擬問題①解答・解説

初版発行日： 2021 年 08 月 31 日

最終更新日： 2021 年 12 月 16 日

著 作： 株式会社シンクスバンク

発 行 者： 株式会社シンクスバンク

本書の一部または全部を、株式会社シンクスバンクから正式な許諾を得ずに、
いかなる方法（転載・転用・送信・上映等）においても無断で複写、複製する
ことは禁止されています。